

1 開催日時

開会 令和3年9月21日(火) 午後1時30分

閉会 令和3年9月21日(火) 午後2時10分

2 開催場所

県庁10階 教育委員室

3 教育長及び出席委員

佐藤 博 教育長

小平 忠孝 委員

畠山 将樹 委員

新妻 二男 委員

宇部 容子 委員

小野寺 明美 委員

4 説明等のため出席した職員

佐藤教育局長、高橋教育次長兼学校教育室長

渡辺教育企画室長兼教育企画推進監、中川学校教育企画監、三浦義務教育課長、須川高校教育課長、近藤特別支援教育課長、八重樫参事兼教職員課総括課長、清川保健体育課総括課長、藤原生涯学習文化財課総括課長

教育企画室：菊池主任主査、新田主事（記録）

5 会議の概要

第1 会期決定の件

本日より決定

第2 事務報告1 新型コロナウイルス感染症対応等について（教育企画室）

別添事務報告により説明

小野寺委員：様々な場面で対策を講じていただいたことが直近の感染者数の減少につながっていると思いますし、大変ありがたく感じています。今後、地域の感染状況によっては文化祭等の学校行事が学校長の判断で開催されることとなるため、この判断については、現場の先生方が大変迷うところであると思いますが、日程変更等も含めて、県教委に相談があった場合の対応はどのようになさるのか教えてください。

中川学校教育企画監：文化祭等につきましては、原則としては緊急事態宣言中であっても校内限りということで実施をしておりますので、基本的には実施をする方向でお願いしているところでございます。そういった中で、地域の感染状況を踏まえて、おっしゃるとおり延期ですとか、引き続き校内限りにするなど、柔軟な対応をお願いしております。その延長線上で、判断に悩んでいる校長先生等から連絡があった場合は、県教委としましても随時相談しながら対応をしているところでございます。

小野寺委員：ありがとうございます。やはり児童生徒にとって、授業以外の活動というのは成長に繋がる非常に大事なものだと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

畠山委員：子ども達が学校に行けるようするための様々な取組ですとか現場の方々の御尽力には大変ありがたいなと思っております。質問と意見が1点ずつあります。まず質問なのですが、学校の教職員もPCR検査をしていかななくてはならないというような報道を目にしますが、既に取り組んでいることなのか、あるいは今後実施していく予定があるのか教えていただけますでしょうか。

清川保健体育課総括課長：文部科学省から県立学校用に抗原検査の簡易キットが配付されており、これは、登校後に発熱等の症状が出て、医療機関への受診をすぐに促すことができない場合に判定するものでございます。こちらの使用の際には、教職員が立ち会って行うことになっているのですが、まずは学校医の御指導の下、体制が整ったところから取り組むようにとのことでしたので、直ちに始め

られるような状況にはなっておりません。非常にリスクが伴い、教職員の負担となることが想像されますので、慎重に取り組んでいくこととしております。文部科学省の方でも、詳細なマニュアル等の準備を進めているところですが、まずは学校医の先生方の御了解と御指導の下進めていくこととしており、小中学校つきましても、配付に向けて準備が進められているものでございます。

畠山委員：ありがとうございます。これは、非常事態を想定してのことだと理解しておりますけれども、そういった事態に対して備えをしておくというのは非常に大事なことだと思うのですが、ご説明いただいたように、現在も限界に近い緊張感の中にいらっしゃる先生方に対して、そこにさらに負担を強いるようなことはしないようにしなければならないと保護者として思うものですから質問させていただきます。もう1点は意見でして、ワクチン接種を受けられる教職員の数についてですが、希望する方々が接種を受けられるよう、様々な工夫をいただいているところだと思います。引き続き進めていただきたいと思う一方、様々な理由から受けたくない、あるいは受けられないという方々もいらっしゃると思いますので、その方々への配慮は慎重に進めていっていただきたいとずっと思っておりましたので、意見として述べさせていただきます。よろしく願いいたします。

### 第3 事務報告 2 令和3年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の結果について（保健体育課）

#### 別添事務報告により説明

宇部委員：コロナ禍の中で、岩手県の児童生徒が活躍している姿に大変勇気づけられています。先日も津志田小学校の6年生が全国大会で優勝し、いわてスーパーキッズの育成がすごくいい方向に向かっていると感じております。これからもよろしく願いいたします。

小野寺委員：私も大変素晴らしいことと感じております。やはり、子ども達の活躍する姿は、県民に対して勇気と元気を与えると思うので、本当に喜ばしいです。先ほど、地域ぐるみの活動が素晴らしいというお話がありましたが、基本的に子ども達は学校にいるので、学校の先生からの指導も大事だと思うのですが、児童生徒に合わせた教職員の異動の配慮のようなものはあるのでしょうか。

清川保健体育課総括課長：ソフトテニスでの好事例がございまして。岩手インターハイで黒沢尻北高校が団体優勝した際のメンバーで、今年3月まで見前中学校に勤務されていた先生が、もともと指導されていた専門の先生に引き継ぐ形で中野中学校へ異動しましたが、途切れなく指導者が配置され、地域ぐるみの活動にも下支えされながら、指導に尽力していただいております。一方、陸上競技などの専門性の高い種目については、専門の先生がおられないところもございまして。その場合は、指導力の高い先生を中心とした県全体での強化練習を開くことで、バックアップ体制を構築しながら、指導にあたっているという状況でございます。

小平委員：近年、小・中・高ともに成績の低迷は顕著でしたが、子ども達の育成に向けて岩手スーパーキッズ等の取組に力を入れ、その成果が徐々に表れてきているように思います。ただ、少し残念なのは、中学校で活躍した生徒が、高校では県外に出てしまっているケースが多いことです。将来的に見れば、岩手県出身の児童生徒が全国あるいは世界に羽ばたいていくことは、もちろん誇らしいですし嬉しくもあります。本県において指導者の育成が課題であることの象徴だと思います。「一芸に秀でる者は多芸に通ず」ということわざがあるように、何か1つの競技で優秀な指導者とされている先生は、どの競技の指導においても指導力があるものです。そこで、指導者不足の解消策として、競技をどれか1つに絞るのではなく、専門分野を超えて、他競技にも目を向けるきっかけとなるような研修会等の工夫を取り入れるなど、指導者の育成についても検討していただきたいと思っております。

清川保健体育課総括課長：「いわて国体」から数年経ちますが、そのレガシーの1つとして「指導者の資質向上」が図られておまして、自らの専門を超えた正しい指導、体罰・暴言によらない適切な指導とはどうあるべきなのかという点も含めまして、指導力向上には今後も取り組んでいくべきものであると考えております。それと合わせまして、県内選手の県外への流出を食い止めることが、本県の教育の向上にもつながると考えていることから、出来る限り本県で頑張ってもらいたいのですが、本人の希望等もありなかなか難しい状況でございます。いずれ、御指摘のありました指導者の育成については、様々な点に通ずることであると思いますので、今後も継続して取り組んでまいりたいと考えてございます。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。